

第Ⅲ期広島県中山間地域振興計画（素案）の概要について

1 要旨・目的

令和3（2021）年1月に策定した「第Ⅱ期広島県中山間地域振興計画（以下「第Ⅱ期計画」）」の計画期間が令和8（2026）年10月末で終期を迎えることから、第Ⅱ期計画の振り返りや中山間地域を取り巻く環境変化等を踏まえ、市町等とも連携しながら、「第Ⅲ期広島県中山間地域振興計画（以下「第Ⅲ期計画」）」の素案をとりまとめた。

2 現状・背景

本県の中山間地域では、県全体を大きく上回るスピードで人口減少や高齢化が進み、医療・介護・福祉、生活交通、買物など日常生活に不可欠なサービス機能等が縮小するなど、地域を取り巻く環境は一段と厳しさを増している。こうした厳しい現状を受け止めた上で、これからの5年間は、将来に向けて、中山間地域をいかに持続可能としていくかが重要である。

3 素案の概要

（1）計画の位置付け

- 「広島県中山間地域振興条例（平成25年広島県条例第44号）」第7条に基づき策定する中山間地域の振興に関する総合的な計画
- 「安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン」における中山間地域領域の分野別計画

（2）計画期間

令和8（2026）年度～令和12（2030）年度（5年間）

（3）将来にわたって目指すべき中山間地域の姿

第Ⅱ期計画に掲げる「目指すべき姿」は変更せず、引き続き、心豊かに笑顔で暮らし、充足した幸せを実感できる中山間地域の実現を目指す。

【目指すべき姿】

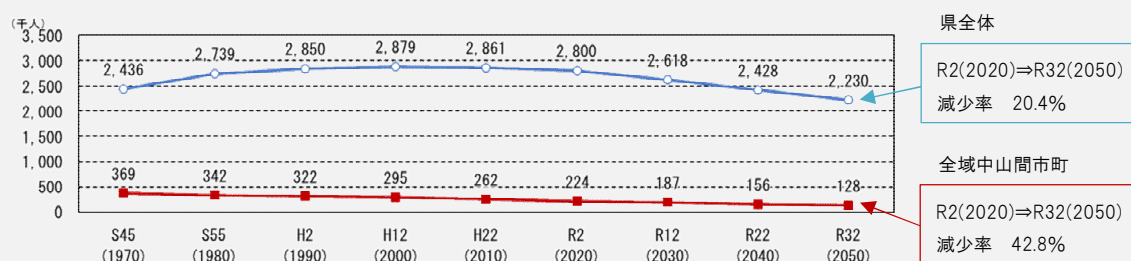
里山・里海に象徴される人と自然が作り出す中山間地域ならではの資産が、守るべき価値あるものとして、内外の人々により引き継がれる中で、地域への愛着と誇りの高まりが、将来への希望と安心につながり、心豊かに、笑顔で幸せな生活を営むことができる中山間地域

(4) 目指すべき姿の実現に向けて踏まえるべき現状と課題

想定を上回るスピードで進む人口減少や高齢化を背景に、あらゆる分野で人手不足が深刻化し、地域産業における生産・経済活動の停滞や医療・介護・福祉、交通、買物などの生活サービス提供体制の維持が困難となることで、将来への不安が増大し、それが若者や子育て世代の定住意欲を低下させ、地域活動等の担い手不足が加速するという「負の連鎖」により、地域の持続可能性が失われかねない状況である。

【人口】

- 令和 7（2025）年国勢調査の人口速報集計では、全域中山間市町の人口減少率は県全体の 2 倍以上の速さ（9.8%）で進行しており、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計（下図）を更に上回るペースで減少が続いている。また、社会減の約 8 割を 20 代から 40 代の若者・子育て世代が占めており、この世代の流出が加速することで、人口の再生産力の低下を招くことが懸念される。



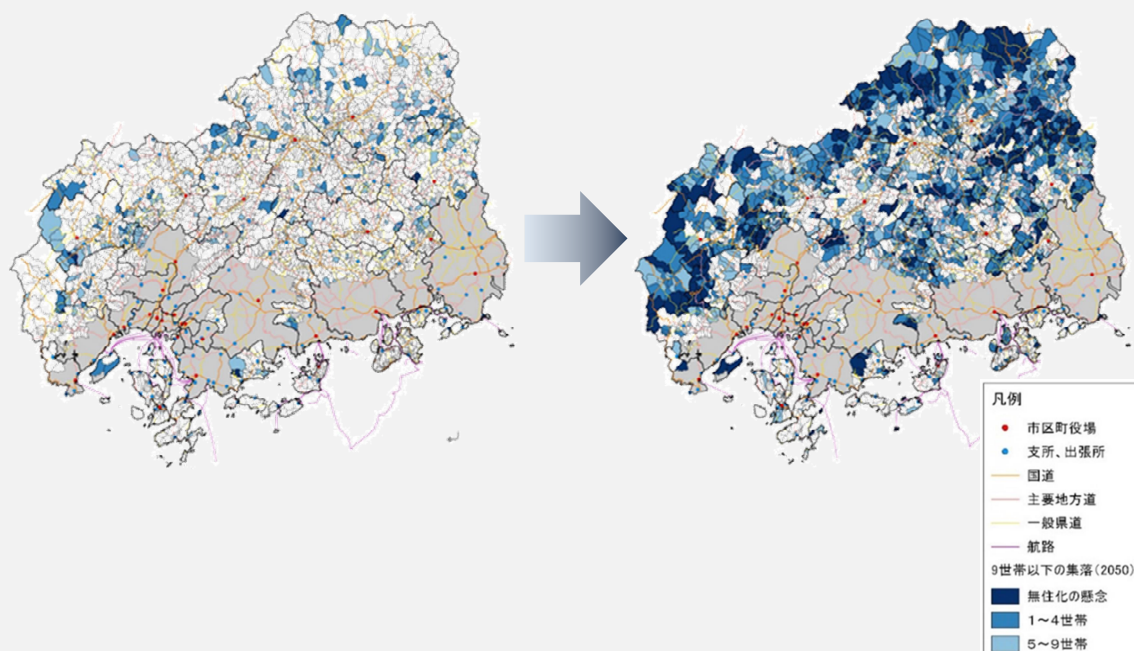
※ 総務省「国勢調査」(R2) 及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域将来推計人口」(R5) による。
※ 全域中山間市町の数値は、経年分も含め、令和 7 年時点で全域中山間市町となっている市町に係る数値。以下同じ。

【集落】

- 令和 32（2050）年には、全集落の約半数にあたる 46.4%が 9 世帯以下の小規模集落となるおそれがあり、声掛けや見守り、草刈りなど地域で支え合う共助機能など、地域を守り継承するための活動の維持・継続が困難となる状況が、多くの集落で目前に迫ってきている。

[令和元（2019）年] 379/3,372（11.2%）

[令和 32（2050）年]（推計）1,346/2,898（46.4%）



(5) 5年後の目指す姿と取組の方向性

【5年後の目指す姿】

中山間地域ならではの資源や特性が再認識されるとともに、地域の価値ある資産として再構築され、大切に引き継がれています。その魅力や豊かさに共鳴し、地域に愛着と誇りを持つ内外の多様な人材によって、様々なチャレンジや、支え合いの輪が広がり、将来に向けて「夢や希望」が持てる、新たな地域づくりの取組が始まっています。また、生活に身近な課題解決をはじめとした、あらゆる取組において、デジタル技術も活用し、地域の持続可能性を高める仕組みが、中山間地域全域で展開されています。

【取組の方向性】

これまで、地域に暮らす人々が中山間地域の多面的な機能や価値を守り継承してきたことで、県民全体がその恩恵を享受してきた。しかし、中山間地域を取り巻く状況が厳しさを増す中、地域の暮らしをどのように守っていくのかに加え、都市部を含めた社会全体で地域をいかに支えていくのが求められる局面に差し掛かっている。

こうした認識の下、第Ⅱ期計画の3つの施策に係る取組を深化させるとともに、

- ・ これまで中山間地域の多面的機能や価値を守り継承してきた地域住民の暮らしを守り、「安心な暮らし」を確保すること、
- ・ 都市部を含めた県民全体が中山間地域から恩恵を享受してきたことを踏まえ、「社会全体で中山間地域を支えていく」という機運を醸成し、地域内外の「人と人とのつながり」によって地域に活力を生み出すこと、
- ・ 地域を支える人材の定着に向けて、地域の基幹産業である農林水産業や、地域経済を牽引してきたものづくり産業など「地域産業の維持・発展」に取り組むとともに、多様な人材による地域ならではの資源や基盤を生かした「新たなチャレンジ」を創出すること、

などの視点をもって、社会全体での支え合いの輪を広げ、中山間地域が人の流れや新たなチャレンジを生み出す「新たな価値を創造する地域」へと発展させ、人口減少下にあっても住民が幸せを感じることができる「持続可能な地域づくり」を進めていく。

(6) 推進体制

○ 広島県中山間地域振興協議会（県・市町）

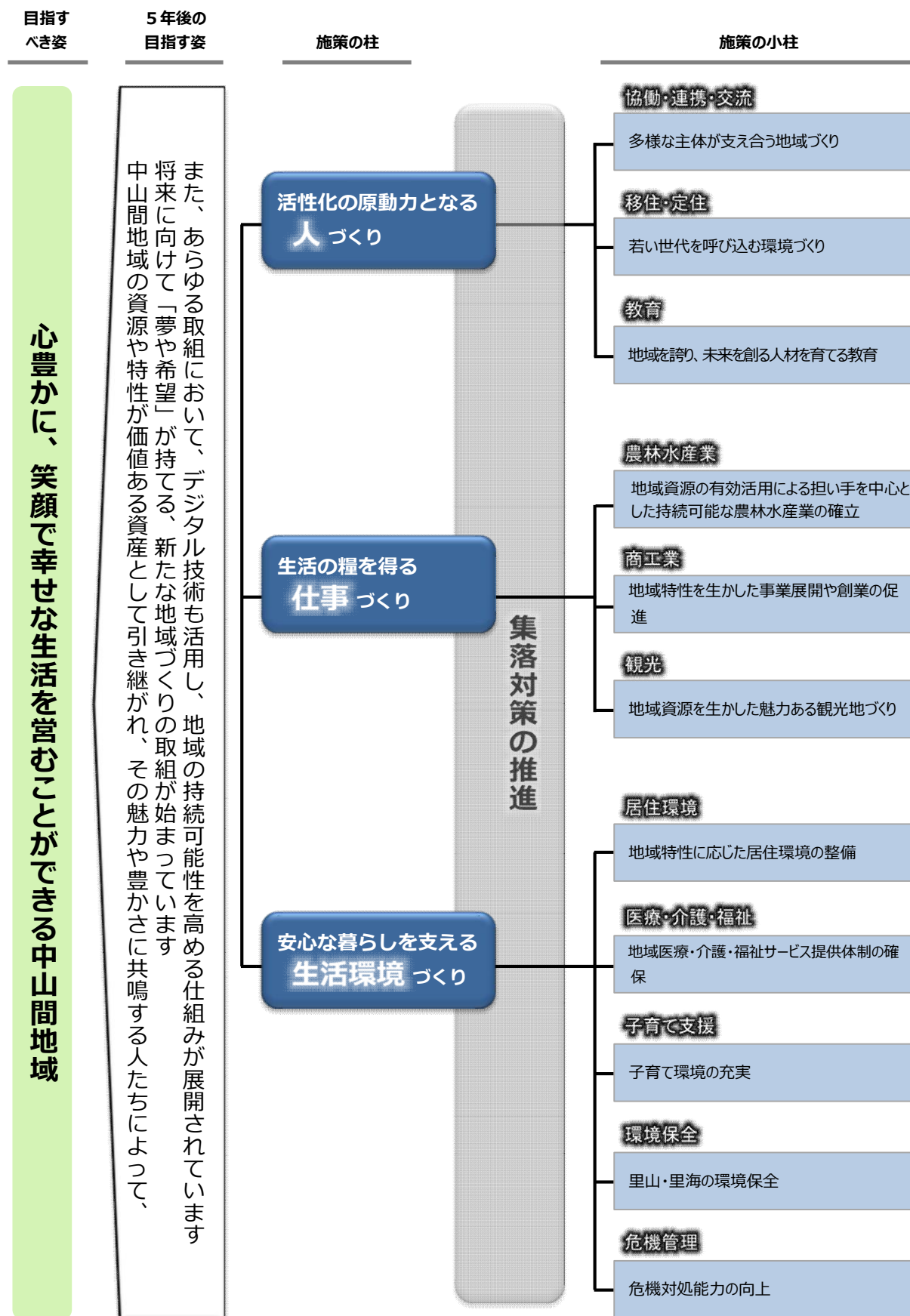
- ・ 知事と関係市町の長で構成し、中山間地域の振興に向けて、密接に連携することで、一体的な振興施策の推進を図る。

○ 広島県中山間地域振興推進本部（県）

- ・ 知事を本部長に、副知事、関係局長等で構成する協議の場を通じて、中山間地域の振興を全力を挙げて推進する。

(7) 施策の全体像

将来にわたって目指すべき中山間地域の姿を実現するため、第Ⅱ期計画の「人づくり」、「仕事づくり」、「生活環境づくり」の3つの施策の柱を継承しつつ、「集落対策」を施策を貫く重要な取組として位置付け、施策を推進する。



～ 持続可能な地域づくりに向けた「集落対策」 ～

令和6（2024）年から、集落の置かれた現状や課題等を踏まえ、住民が主体となった話し合いを通じて、将来のあるべき姿に向けた合意形成を図り、地域の持続可能性を確保していく「集落対策」を推進しており、第Ⅲ期計画では、これを施策を貫く重要な取組として位置付け、施策を推進する。

この取組を通じて、将来を見据えた持続可能な地域の在り方を明らかにし、地元関係者、市町、県が、限られた資源の中でも、地域に必要な機能を維持・向上できる地域運営の仕組みの構築を連携して進める。

そのため、多様な主体による役割分担や、地域運営組織（RMO）など複数の集落が共同で取り組む運営体制の構築等を推進するとともに、一定の生活機能を備えた拠点と周辺集落との機能分担等による生活圈全体の最適化を図るなど、地域・集落の実情に応じた課題の解決を図っていく。

その解決に当たっては、深刻な人手不足や地理的条件を超えて地域を持続可能にするため、AIをはじめとする急速かつ飛躍的に発展するデジタル技術を積極的に活用するなど、集落活動の負担軽減や生活サービスの効率化・高度化を進めることで、安心して暮らせる地域社会の実現につなげていく。

第Ⅲ期計画では、こうした「集落対策の推進」を、活性化の原動力となる「人づくり」、生活の糧を得る「仕事づくり」、安心な暮らしを支える「生活環境づくり」の3つの施策の柱と連関させながら、地域内外の人のつながりを通じて創出される地域の活力を原動力とし、人口減少下にあっても、笑顔がつながり広がっていく持続可能な「新たな地域づくり」を推進する。

(8) 施策の柱ごとの目指す姿、主な指標及び取組

活性化の原動力となる 人づくり

■ポイント 社会全体で支えていくという機運を醸成し、地域内外の人と人とのつながりを構築

県民全体が中山間地域から恩恵を享受してきたことを踏まえ、「社会全体で支えていく」という機運を醸成し、地域内外の「人と人とのつながり」によって地域に活力を生み出すため、特定の地域と継続かつ多様な形で関わる関係人口の創出などに取り組む。

① 目指す姿

- ◆ 地域に愛着や誇りを持つ人たちによる、様々なチャレンジが行われるとともに、地域に根差した活動を担う内外の人材が増え、互いにつながり合うことによって、地域を支える人材のネットワークが生まれ、地域の活力を生み出す活動が展開されています。
- ◆ 県内の豊かな自然や歴史、風土に培われてきた特色ある文化芸術や、地域で新たに生まれた多彩な文化芸術の魅力が広く県民に親しまれるとともに、スポーツ資源を活用した地域づくりの取組が地域のコミュニティを結束することで、地域への愛着や誇りの醸成につながっています。
- ◆ 広島県への移住により、移住者の希望するライフスタイルや働き方の価値観が実現されることで、広島県の移住先としてのブランドが確立され、東京圏等から移住者が高い水準で安定的・継続的に転入しています。
- ◆ 次代を担う子供たちには、学校と地域が連携して、未来を創る人材としての資質や能力を伸ばす機会が確保され、地域に誇りを持ち、将来の担い手として育成される環境が整いつつあります。

② 主な指標

指標	現状値 (R7年度)	目標値 (R12年度)
関係人口の創出に係る指標 (国の動向等を踏まえ、1年後を目処に設定予定)	—	—
地域コミュニティ活動が展開できている住民自治組織の割合(全域中山間市町)	74.8%	75.0%

※ 地域を限定していない「指標」の目標値は、全県を対象とする数値

③ 施策推進の方向性

- 人口減少や高齢化が想定を上回るペースで進行する中でも、中山間地域が心豊かに笑顔で幸せな生活を営み続けられるためには、地域に暮らす人々が地域への思いや危機感を共有し、将来に向けて一步を踏み出すことが必要である。これが地域の維持・活性化の大きな推進力となるとともに、その動きに呼応する人々の地域への愛着や誇りを高めることにもつながる。地域の将来を見据え、多くの住民を巻き込みながら、こうした動きを牽引する人材の確保・育成を進める。

- 中山間地域を取り巻く課題は、多様な要因が複雑に絡み合って形成されており、地域内だけで解決していくことは困難である。そのため、地域内外の人材の流動化・循環を図りながら、地域活動を展開することが重要となる。地域に住み続けたい人、ふるさとに戻りたい人、移住したい人、新たな暮らしや仕事にチャレンジしたい人、地域を応援したい人など、多様な人々が、それぞれの夢や希望を実現できる環境を整えていく。

とりわけ、都市部に集積している、企業、学生、専門人材、ボランティアなどの多様な人材とのつながりにより、人・企業・団体が分野を超えて協働・連携する流れを創出する。

- 地域の次代を担う若者世代に対して、中山間地域が有する自然、歴史・文化、伝統産業、地域スポーツなどの価値や魅力を共感する体験等を通じて、地域への愛着と誇りを醸成する。

【主な施策】

協働・連携・交流 多様な主体が支え合う地域づくり

- ◆ 地域を支える人づくり
 - ・ 地域活動を牽引する人材の確保・育成や、関係人口の創出
 - ・ 外国人住民と地域住民が安心して生活できる共生の仕組みづくり
 - ・ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を通じた人材育成 など
- ◆ 住民合意に基づく将来への備え
 - ・ 地区・集落の話し合いをサポートする専門人材の派遣
 - ・ 住民の話し合いに基づく将来見通しに応じた合意形成の支援
 - ・ 生活サービス機能の確保や地域運営組織（RMO等）の設立後押し など
- ◆ 文化芸術を楽しむ機会の充実と魅力発信
 - ・ 幅広い世代のニーズに応じた身近な文化芸術の魅力発信
 - ・ 文化芸術活動の発表機会の提供 など
- ◆ スポーツを通じた地域活性化
 - ・ スポーツアクティベーションひろしま（SAH）による市町の戦略立案支援
 - ・ 「する」「みる」「ささえる」といった多様な関わり方の促進 など

移住・定住 若い世代を呼び込む環境づくり

- ◆ 東京圏等からの移住・定住の促進
 - ・ 移住の受け皿となる市町等と連携した、ニーズを踏まえたマッチング
 - ・ 魅力的な空き家活用事例の発信や、ニーズの高いエリアの掘り起こし など

教育 地域を誇り、未来を創る人材を育てる教育

- ◆ 地域の次代を担う人材の育成
 - ・ 地域の特色を生かした教育活動による地域への愛着と理解の深化
 - ・ 里山・里海の豊かな資源を生かした体験活動による主体性や社会性の育成 など

◆ 地域の内外から選ばれる魅力ある学校づくり

- ・ 地域と連携した特色づくり
- ・ デジタル技術の活用による地理的条件に捉われない多様な学びの提供 など

■ポイント 地域産業を維持・発展させ、地域の資源や基盤を生かした新たなチャレンジを創出

地域の安定的な経済基盤づくりに向けて、地域の基幹産業である農林水産業や、地域経済を牽引してきたものづくり産業など「地域産業の維持・発展」に取り組むとともに、地域の資源や基盤を生かした「新たなチャレンジの創出」などに取り組む。

① 目指す姿

- ◆ 企業経営を実践している農林漁業者をはじめ、多様な担い手による地域の生産基盤の有効活用が進むことにより、農林水産物の生産などが拡大しています。
- ◆ 多様な企業や人材が、地域ならではの資源や基盤を生かして、新たな事業や経営発展にチャレンジすることによって、地域産業が維持・成長し、働き続けられる環境が整いつつあります。
- ◆ 観光面では、サイクリング、カヤックなどの体験や地域で育まれてきた伝統芸能の鑑賞、情緒あふれる古民家での宿泊体験など、中山間地域の魅力を生かした観光サービスや観光プロダクト等が充実し、国内外からの多くの観光客が周遊しています。

② 主な指標

指標	現状値 (R 7 年度)	目標値 (R12 年度)
農業産出額（畜産物除く）	906 億円 (R 6 年度)	976 億円
働くところが少ないと感じる中山間地域の住民の割合	73.2% (R 6 年度)	70.0%以下
年間総観光客数	6,559 万人 (R 7 年)	7,310 万人 (R12 年)

※ 地域を限定していない「指標」の目標値は、全県を対象とする数値

③ 施策推進の方向性

- 地域の安定的な経済基盤づくりに向け、基幹産業の維持・発展や、多様な人材による地域ならではの資源や基盤を生かした「新たなチャレンジ」の創出など、地域産業の活性化に取り組む。
- 人口減少や高齢化の進行により農林漁業者が減少し、耕作放棄される農地が想定以上に増加するなど、生産基盤の維持・管理が困難になるリスクが一層顕在化すると予測される。

このため、農業においては、農地を担い手に集約・集積し、経営力や生産性を向上させることにより持続可能な経営の確立を目指すとともに、若者が就業先として魅力を感じ、安心して挑戦できる環境づくりに努める。さらに、兼業農家など多様な担い手との連携を強化し、農業を担う人材の確保に取り組む。

こうした取組を、畜産業や水産業、林業など、それぞれの業種の特性に応じて進めることで、中山間地域の基幹産業としての農林水産業の持続的な発展を支えていく。

- 商工業では、地域経済を牽引し、雇用を支える基幹産業であるものづくり産業等の維持・発展に加えて、都市部にはない地域固有の資源を生かした付加価値の高いビジネスモデルの創出や、イノベーションの創出による労働生産性の高いビジネスモデルの確立を進める。こうした取組を通じて、企業や仕事の魅力を高め、雇用の確保や地域外への人口流出の抑制、さらには、移住・定住の促進につなげていく。

特に、中小企業においては、労働力不足を補う生産性向上を図っていくため、経営の高度化などの専門性・経験を有し、新たなイノベーションを生むような人材の確保に取り組む。加えて、AI・ロボット等をはじめとするデジタル技術を活用し、事業・業務における省力化や付加価値創出を図っていく取組を後押しする。

- 観光においては、中山間地域の資源である、食、自然、文化、芸術、景観などの多様な魅力を生かし、都市と自然の近接性を生かした国内外の観光需要を地域に取り込む動きにつなげていく。

【主な施策】

農林水産業 地域資源の有効活用による担い手を中心とした持続可能な農林水産業の確立

- ◆ 農業 ～担い手の確保・育成、生産性の向上、農地の持続的な活用
 - ・ 地域の核となる担い手の育成
 - ・ 担い手の経営発展に向けた生産性の向上
 - ・ 担い手への農地集積と基盤整備・保全管理 など
- ◆ 畜産業 ～持続可能な広島和牛生産体制の構築
 - ・ 広島血統和牛のブランド力向上による需要拡大と生産体制強化
 - ・ 自給飼料の生産拡大等による畜産経営の体質強化 など
- ◆ 水産業 ～持続的かつ安定的な水産資源の生産供給体制の構築
 - ・ 持続可能なかき生産体制の再構築
 - ・ 「瀬戸内さかな」の安定供給体制の構築 など
- ◆ 林業 ～森林資源経営サイクルの構築・森林資源利用フローの推進
 - ・ 林業経営適地の集約化や林業従事者の確保、再造林に必要な苗木供給体制の整備
 - ・ 県産材の流通・加工体制の整備や、需要拡大の推進 など

商工業 地域特性を生かした事業展開や創業の促進

- ◆ 地域産業の維持・成長支援
 - ・ ものづくり産業等における付加価値の高い領域の強化による競争力向上
 - ・ 「オール広島創業支援ネットワーク」等による創業・第二創業の支援
 - ・ 副業・兼業人材と地域事業者のマッチングによる新たな成長の後押し
 - ・ 中小企業や小規模企業の持続的な経営改善による生産性向上の促進 など
- ◆ 雇用機会の創出・就業促進
 - ・ 「ひろしまワークス」等による職業紹介を通じた就業支援
 - ・ 高齢者や障害者など配慮が必要な求職者等に対するきめ細かな就業支援
 - ・ 助成制度を活用した産業団地や民間遊休地等への企業誘致の促進
 - ・ 離職した女性の再就職支援や企業内での登用促進、男性の育児休業の取得促進など

- ◆ 地域資源の販路・消費拡大に向けた価値創造
 - ・ 生産者と料理人との相互研鑽による地域農林水産物の価値の磨き上げ
 - ・ 地域の中小企業が行う新商品開発や、新たな販売チャネルの確保支援 など

観光 地域資源を生かした魅力ある観光地づくり

- ◆ 国内外の観光客に向けた観光資源の磨き上げと周遊促進
 - ・ 市町やDMO等と連携した観光客の滞在や周遊の促進に繋がる観光プロダクトの開発
 - ・ 円滑な移動等を可能にするストレスフリーな受入環境の整備
 - ・ マウンテンバイクの拠点づくりやサイクリングロードの走行環境確保 など
- ◆ 観光資源をつなぐ道路ネットワークの形成
 - ・ 観光地をつなぐ道路における渋滞箇所や狭隘区間の改善
 - ・ 情報発信や地域連携の拠点としての「道の駅」の機能向上 など

■ポイント 中山間地域の多面的機能や価値を守り継承してきた地域住民の安心な暮らしを確保

将来にわたって安心して暮らせる環境を整えるため、深刻な人手不足や地理的条件を背景に、住民の課題意識が高い生活交通等の分野に「デジタル技術を活用」するなど、持続可能な生活基盤の確保に取り組む。

① 目指す姿

- ◆ 医療・介護・福祉、生活交通など、地域の実態に応じた生活基盤の確保によって、人々が安心して暮らせる生活環境づくりが進んでいます。
- ◆ とりわけ、交通アクセスについては、広域的な道路網と地域内の交通基盤が整備され、地域と都市を結ぶ広域幹線交通が維持されているとともに、地域の移動実態に応じた交通再編や新たな移動サービスの普及が進むことで地域コミュニティ内での日常生活に必要な移動が確保され、地域で支え合い、誰もが移動をあきらめることのない地域づくりが進んでいます。
- ◆ 医療の資源に限りがある中で、安心して質の高い医療を受けることができるよう、基幹的なへき地医療拠点病院等が中心となった、他の中小規模の医療機関への医師派遣や地域の医療機関のネットワークを構築することに加え、この取組を県内全域に拡大し、へき地においても専門医療等を学ぶ機会が得られる人材育成の仕組みづくりやオンラインによる診療・服薬指導の普及など、必要な医療サービスが受けられる環境整備が進んでいます。
- ◆ 介護等を必要とする人も、住み慣れた身近な地域で安心して暮らすことができるよう、地域の医療・介護等の関係者及び市町が連携し、質の高い地域包括ケアシステムの体制づくりが進んでいます。
- ◆ 全ての家庭を妊娠期から子育て期まで見守り、支援するひろしまネウボラの仕組みが全市町に構築され、子育て家庭に関わる全ての医療機関、保育所・幼稚園、地域子育て支援拠点、学校等と連携して子供たちを多面的・継続的に見守ることにより、必要な支援が届けられています。
- ◆ 全市町において、保育を必要とする子供が保育所、認定こども園等にいつでも入所することができ、質の高い教育・保育を受けています。また、希望する児童が放課後児童クラブを利用することができ、安心して過ごさせています。
- ◆ 里山・里海の豊かな自然環境や、森林の持つ水源かん養などの機能が維持・保全されています。
- ◆ 災害を未然に防止し、局地的豪雨や地震、高潮等による災害時の被害を最小限にするための防災施設の整備が計画的に進むとともに、災害から命を守るための行動が実践されています。
- ◆ 新興感染症の発生・まん延時においても、十分な検査・診療体制が確保されるなど、大規模な健康危機管理事案に迅速に対応できる保健・医療の体制が整備されています。

② 主な指標

指標	現状値 (R 7 年度)	目標値 (R12 年度)
生活を満足と感じる中山間地域の住民の割合	41.1% (R 6 年度)	60.0%
地域で支え合う新たな交通サービスを交通計画に位置付け、取組を進める市町数	16 市町	19 市町
医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合	31.8%	65.0%
安心して妊娠、出産、子育てができると思う者の割合	74.1%	84.0%

※ 地域を限定していない「指標」の目標値は、全県を対象とする数値

③ 施策推進の方向性

- 日常生活に不可欠なサービスが、将来にわたり安定的に提供されるためには、地域に暮らす住民の生活圏を踏まえ、暮らしの導線の再編や密度の経済性を考慮しつつ、行政、地元住民が一緒になって持続可能な地域づくりに向けた検討を進めていくことが重要である。限りある地域資源を効率的に活用するためには、一定の生活機能を備えた拠点を中心に生活基盤を確保する暮らしの在り方や、地域の担い手減少に起因する地域の困り事を、地域内外の人材のつながりによって解決する仕組みの構築など、地域の実情に応じて検討し、その適応策の導入に向けた取組を後押しする。
- また、行政運営におけるリソース不足が課題となる中、従来型の公共サービスやインフラの整備・維持管理が困難となることが予測されることから、地域間の機能分担など全体最適化を踏まえた将来の姿を見据え、持続可能な生活環境の在り方を検討する。検討に当たっては、深刻な人手不足や地理的な不利条件を、A Iをはじめとする急速かつ飛躍的に発展するデジタル技術の積極的な活用によって解決に結びつけていくことが重要となる。
- 加えて、中山間地域が有する、都市部では得難い多様で恵まれた自然環境、ゆとりある生活空間、そして季節の移ろいを身近に感じられる「豊かさ」を、社会全体で守り継承する取組を推進する。

【主な施策】

居住環境 地域特性に応じた居住環境の整備

- ◆ 安心して暮らせる生活環境の確保
 - ・ 将来を見据えた地域の暮らしの在り方を踏まえた生活基盤の確保
 - ・ デジタル技術を積極的に活用した地域住民の生活に直結する取組の創出 など
- ◆ 暮らしを支える生活交通の確保
 - ・ 地域コミュニティ内の移動需要の把握と最適な路線の維持・改善
 - ・ 生活関連施設への公共交通のアクセス性向上
 - ・ 既存交通の提供が困難な地域における輸送資源を総動員した新たなサービスの導入促進
 - ・ 利便性や安全性に配慮した地域公共交通の環境整備の推進
 - ・ 観光・ビジネスといった新たな移動需要を獲得するための取組の推進
 - ・ 離島から本土への唯一航路や生活航路の安定的な維持・確保、港湾施設の改修など

- ◆ 社会環境の変化に対応した公共インフラの維持・管理
 - ・ 道路や小規模水道等の公共インフラの適切な維持管理
 - ・ 水道事業の広域連携の取組の推進
 - ・ 污水处理施設の計画的な整備と、広域化・共同化の推進 など
- ◆ 中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備
 - ・ 地域拠点と周辺を結ぶ効率的な道路整備や、バス路線1車線区間の解消 など
- ◆ 交番・駐在所による地域の治安の確保
 - ・ パトロールや巡回連絡等の警察活動の推進や、施設の計画的な整備 など
- ◆ 老朽空き家対策の推進
 - ・ 所有者に対する自らの解体や適正管理、特定空家等の解消に向けた支援 など

医療・介護・福祉 地域医療・介護・福祉サービス提供体制の確保

- ◆ 医師等医療従事者の確保・育成
 - ・ 若手医師を中心に確保・育成した医師を医育機関と連携して派遣
 - ・ 奨学金貸与やキャリアプラン作成支援等による中山間地域を担う医師の育成 など
- ◆ 医療連携体制の維持・強化
 - ・ へき地医療拠点病院を核とした地域内医療機関のネットワーク構築
 - ・ オンライン診療・服薬指導の普及や、高度医療へアクセスできる環境整備
 - ・ 移動診療車による巡回診療や、離島住民への済生丸による医療提供 など
- ◆ 地域包括ケアシステムの質の向上
 - ・ 地域の実情に応じた在宅医療・介護連携や、生活支援体制の整備
 - ・ 福祉・介護人材の確保・育成・定着及び生産性の向上 など

子育て支援 子育て環境の充実

- ◆ 妊娠期からの見守り・支援の充実
 - ・ 「ひろしまネウボラ」の仕組みの強化・改善や県民への認知促進
 - ・ オンラインを活用した相談や、産後ケア事業の利用促進による支援充実 など
- ◆ みんなで子育て応援
 - ・ 「共家事・子育て」に関する意識改革の推進
 - ・ 地域社会全体で子育てを応援する機運の醸成 など
- ◆ 多様なライフスタイルに応じた子育て環境の整備
 - ・ 質の高い保育体制の確保や、放課後児童クラブの受け皿整備・人材確保
 - ・ 子供が自然を体験し「5つの力」を育む自然保育の理解深化と質の底上げ など

環境保全 里山・里海の環境保全

- ◆ 森林の公益的機能の維持・発揮
 - ・ 手入れ不足の人工林の間伐促進や、森林経営管理制度等を活用した公的整備
 - ・ 里山林整備における整備目的ごとの施業ガイドラインの提示と計画的整備 など
- ◆ 地域資源を活用した再生可能エネルギーの利用促進
 - ・ 里山の手入れで搬出された未利用材の熱利用や木質バイオマスの利用促進 など

◆ 生物多様性の保全

- ・ ツキノワグマ等出没時の適切な対処や、野生生物との共生に向けた環境づくり
- ・ 自然公園等施設のニーズを踏まえた施設整備や、効果的な情報発信 など

◆ 廃棄物の適正処理と海洋プラスチックごみの流出防止

- ・ 不法投棄の早期発見や、プラスチック代替素材への転換の推進
- ・ 活動団体と連携した漂着ごみ等の清掃・回収の取組 など

危機管理 危機対処能力の向上

◆ 災害対処能力の向上

- ・ AI／IoT等のデジタル技術を最大限活用した効率的な事前防災の推進
- ・ 子供の頃から主体的に適切な避難行動を実践する力を養う防災教育の推進
- ・ 防災リーダーや女性消防団員など、多様な担い手の育成と活用の促進 など

◆ 新興感染症等の発生時における体制の強化

- ・ 平時からの医療機関との協定締結による、迅速かつ的確な対応体制の整備
- ・ 県や市町、関係機関が緊密に連携した医療機能等の役割分担 など